

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p><u>上位目標</u>：ゴクウェ・ノース地区のより多くの住民が安全な水及び衛生環境で生活できるようになること。</p> <p><u>達成された事柄</u>：コミュニティ（8区、9区、33区、34区）における浅井戸の設置及び修繕、並びにこれらの地区にある小・中学校、及びコミュニティにて衛生教育を実施し、対象地域全体の水・衛生環境の改善に貢献した。また、次期事業で行なう貯水タンク設置の環境整備のため、小学校（ネバナ小学校、ガンガンガ小学校、ニューマイン小学校）の校舎建設を行なった。</p> <p>事業を実施したゴクウェ・ノース地区ではこれまで多くの家庭が飲料水、生活用水のほとんどを「安全な水」とは言い難い川の水に頼っていた。しかし、浅井戸の設置・修繕によって、上記の多くの家庭がより安全な水を得られるようになった。</p> <p>また、衛生教育を通じて、学校や家庭での「衛生」に関する考え方が変化し、家庭や学校の衛生環境が徐々にではあるが、改善しつつある。具体例として、ある小学校ではこれまで停滞していたトイレの工事が進むようになったことが挙げられる。これは衛生教育を通して、学校の教員及び保護者の間で衛生的な環境の重要性が認識されたことが一因と考えられる。</p>
(2) 事業内容	<p><u>(ア) 安全な水へのアクセスの向上</u></p> <p>A. 学校における貯水タンク及び校舎の建設</p> <p>①小学校における校舎建設：6校舎</p> <p>※第2期に雨水を貯める貯水タンクの設置を行なうため、雨水の集水機能を持つ屋根付きの校舎建設を行なった。</p> <p>B. コミュニティにおける浅井戸の設置及び修繕</p> <p>①浅井戸の設置（15基）・修繕（6基）</p> <p>申請時には設置（10基）・修繕（11基）としていたが、2013年6月5日付の事業変更報告によって上記の設置・修繕数に変更した。</p> <p><u>(イ) 衛生環境の改善</u></p> <p>C. 参加型保健及び衛生に関する教育の実施</p> <p>①参加型保健及び衛生に関する教育の実施： 直接裨益者（105人）／間接裨益者数（約2,500人）</p>

(3) 達成された成果

(ア) 安全な水へのアクセスの向上

A. 学校における貯水タンク及び校舎の建設

見込まれた裨益者数：計6校舎が建設され、約1,205人の生徒が校舎を利用できるようになる。

達成された裨益者数：計6校舎建設され、1,336人の生徒が校舎を利用できるようになった。

内訳：ネバナ小学校（2校舎：507人）、ガンガンガ小学校（2校舎：501人）、ニューマイン小学校（2校舎：328人）

指標1：各校で最大160人の生徒が年間を通して、天候に左右されることなく授業を受けられる。

成果1：3校で1,336人の生徒が強い直射日光や砂嵐、雨期の豪雨などに妨げられることなく授業を受けることができるようになった（各校校舎の最大収容人数は160人だが、時間帯をずらして全生徒が使用している）。

B. コミュニティにおける浅井戸の設置及び修繕

見込まれた裨益者数：約4,670人

（設置（10基）：約3,920人・

修繕（11基）：約750人）

達成された裨益者数：約4,730人

（設置（15基）：約3,690人・

修繕（6基）：約1,040人）

内訳：8区（設置（6基）：約1,440人）、9区（設置（5基）：約1,310人／修繕（1基）：約150人）、33区（設置（4基）：約940人／修繕（5基）：約890人）

指標1：水質検査が飲料に適していると判断され、浅井戸周辺に住む80%以上の住民が利用できる。

成果1：設置・修繕した全21基に対して水質検査を実施した。そのうち16基は飲料水として利用可能であると判断された。5基に関しては基準値を超える細菌などが検出されたため、保健省と連携して水の消毒を行ない、飲用に適した状態となった。今後は保健省とともに消毒処置を行なった5つの井戸を定期的にモニタリングし、再度消毒を行なう必要があると判断された場合には保健省が責任をもって行なう。各井戸は周辺に住むほぼすべての住民が利用している。

(イ) 衛生環境の改善

C. 参加型保健及び衛生に関する教育の実施

見込まれた裨益者数：1,695人（直接裨益者：90人／間接裨益者：1,605人）

達成された裨益者数：2,225人（直接裨益者：105人、間接裨益者：2,101人）

内訳：① 直接裨益者：105人

（8区（19人）、9区（21人）、33区（18人）、34区（25人）、ムティモリ小学校（3人）、チオザ小学校（2人）、チオザ中学校（3人）、グラ小学校（3人）ネバナ小学校（3人）、ガンガンガ小学校（2人）、ガンガンガ中学校（3人）、ニューマイン小学校（3人））

② 間接裨益者：1,729人（コミュニティ372人、スクール・ヘルスクラブに参加した生徒1,357人）

指標1：参加したトレーナーが理解度を測るテストで70%以上正答する。

成果1：参加したトレーナーに対してテストを行ない、平均点数が25点満点中18.025点（72.1%）となり、70%にあたる17.50点を超えた。

指標2：トレーナーから訓練を受けた参加者が理解度を測るテストで70%以上正答する。

成果2：トレーナーから訓練を受けた参加者に対してテストを行ない、平均点数が25点満点中17.92点（71.7%）となり、70%にあたる17.50点を超えた。

(4) 持続発展性

① 小学校における校舎建設

校舎建設終了後、学校運営を担う各校の School Development Committee (学校開発委員会：以降 SDCs) のメンバー (校長、教頭、主任教諭及び生徒の保護者) に対し、事業地の行政職員が講師となり、校舎の維持・管理研修を行なった。この研修を通して、SDCs は校舎の維持・管理方法を習得した。また、現地行政と各 SDCs の関係が強化され、SDCs だけでは対応できない事柄に関しては、現地行政と連携して対応していく体制が整えられている。

② 浅井戸の設置／修繕

浅井戸の設置／修繕後、各浅井戸の Water Point Committees (井戸管理委員会：以降 WPCs) のメンバー (井戸を利用している住民) に対して事業地の行政職員が講師となり、維持・管理研修を行なった。この研修を通して WPCs は校舎の浅井戸の維持・管理方法を学んだ。またこの研修を通して、現地行政と各 WPCs の関係が強化され、WPCs だけでは対応できない事柄に関しては、現地行政と連携して維持・管理に対応していく体制が整えられている。

③ 参加型保健・衛生教育の実施

この研修を通して普及した保健・衛生に関する知識は、各家庭や学校において実践されていくことで、定着することが期待される。実際、事業地では「衛生」に関する考え方が変化しつつあり、モニタリングで訪問した家庭では食器をしっかりと洗って棚に収納し (以前は地面に置いていた)、いつでも手を洗うことができるよう簡易的な手洗い場を設置していた。これは衛生教育を通して、衛生的な環境の重要性が認識されたことが一因と考えられる。モニタリングは事業が終わる 2016 年まで実施していくが、それ以降は現地行政の Environmental Health Technician (地域環境・保健員) と ADRA Zimbabwe がフォローアップを行なう。